宇治市長選挙結果について

2008 年 12 月 8 日

市民が主人公の21世紀宇治を創るネットワーク

（１）21 宇治市民ネットに参加した私たちは、市政転換を願う広範な市民とごいっしょに、宮本繁夫候補の勝利へ全力をあげてがんばりました。宮本候補は１６７９５票、得票率３０，２６％を獲得、久保田候補は２８８０４票、得票率５１．９０％、片岡候補は９８９９票、得票率１７．８４％でした。宮本候補は前回選挙に比して１９９４票のばしましたが、勝利することはできませんでした。

（２）こんどの市長選挙は、現市政の継続か、市政転換かが問われました。久保田候補の得票は前回比１２０２票の減票、得票率は１１．５６ポイント減少し、半数近くが「ノー」をつきつけ、現市政への厳しい批判という選挙結果を示しました。また、「相乗り」への大きな批判がだされたのも重要な特徴でした。

（３）私たちは 10 月 17 日、宮本繁夫氏を候補者として決定しました。候補の人柄と訴えへの共感が広がるなかで、11 月 19 日に市議会社会議員団（浅見健二氏・池内光宏氏）が支持表明されるなど、市政転換への大きなうねりがおこりました。これまでの立場のちがいをこえた共同のたたかいでした。

結果は市政転換に至りませんでしたが、選挙結果はこれからの市政運営に大きく反映されるべきものです。

（４）宮本候補は、マニフェスト「国にはっきりものを言い、くらし・営業を応援、医療・福祉・教育の充実、市民とともに歩む市政へ」を 11 月 20 日に発表し、政策を訴えぬきました。

私たちは「後期高齢者医療制度廃止を求める宮本市長を」「医療・福祉・教育を充実させる宮本市政を」「３期１２年も続いた強引な市政から市民と共に歩む宮本市政を」と訴えました。この政策は市民の願いと合致し、政策論戦では現職候補を圧倒しました。

これまで拒否し続けてきた、教室へのエアコン設置や耐震改修助成制度について、選挙直前に実施を約束しましたが、これはこれまでの市民運動の大きな成果です。

宮本候補の政策は、今後の市民の暮らしを守り、市政をただすたたかいに大きく生きるものです。その実現のため、今後いっそう奮闘するものです。